

磯根重要魚介類の資源生態調査（海藻群落）

（浅海増殖試験）

石田健次

1. 研究目的

クロメ群落は、沿岸における藻食性底棲有用動物のサザエ、アワビ類、ウニ類などにとって生活の場として重要な働きをしている。本年度は、クロメの年齢形質として有効とされた仮根（付着器）の段数¹⁾から茎部や葉部の年齢別の成長と季節変化などについて調べた。

2. 研究方法

用いた資料は、昭和61年7月から平成元年1月の間に八東郡鹿島町沖合の水深7~8mのクロメ群落からスキューバ潜水により採集し、計測した1,060個体の諸形質の精密測定資料である（添付資料参照）。このうち、年齢が判別出来た312個体から茎部や葉部の月別平均値を求め、年齢と季節変化などについて検討した。

3. 研究結果

測定結果を表1に示した。クロメは同じ生育場において、茎部の成長は個々に違い、葉部が季節的な消長を繰り返す¹⁾、それぞれの長さや重量は年齢が高くなるにしたがって増加した。また、茎部と葉部のそれぞれの長さや重量の関係は茎部が高い相関²⁾を示したが、葉部は最も短い12、1月と最も長くなる4、5月では同じ長さ比べて重量が12、1月より4、5月が重い傾向がみられた。コンブ類では伸長停滞期に身入れ現象が起こる³⁾ことから、この時期の葉部が最も肥厚していたと思われる。いずれにしても、鹿島沿岸のクロメ群落内では葉部と茎部の季節的な形態変化が繰り返され、水深が深い場所では茎長が長くなる傾向がみられており¹⁾、生育環境による形態変化について検討が必要である。

表1 クロメの成長

部 位	年 齢				
	2	3	4	5	6
茎長 (mm)	3~46	15~55	30~86	37~115	75~178
葉長 (mm)	68~125	108~245	81~287	155~287	140~250
茎重量 (g)	0.1~1.5	0.1~2.9	0.9~5.3	1.0~8.8	5.2~13.5
葉重量 (g)	0.4~16.2	5.5~79.0	16.5~112.7	26.7~207.6	48.3~131.1
全重量 (g)	0.4~17.8	2.5~81.8	17.2~118.0	27.7~216.4	61.8~306.2

4. 文献

- 1) 石田健次・由木雄一：島根県鹿島沿岸におけるクロメの季節変化。水産増殖、44(3)、241 - 247 (1996)。
- 2) 石田健次 (1987)：浅海増殖試験（クロメ・サザエ）、島根水試事業報告、146 - 160 (1987)。
- 3) 筒井 功・大野正夫：和歌山県白浜産クロメの生長・成熟と形態の季節的変化、藻類、40、39 - 46 (1992)。